

---

# 妄想バカと幽霊と相棒と

七瀬ユキ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

妄想バカと幽霊と相棒と

### 【Nコード】

N55940

### 【作者名】

七瀬ユキ

### 【あらすじ】

幽霊嫌いの主人公（作者）が幽霊の相棒と一緒に暮らすことになった

半分日記

恋愛ものになるのかは

相棒次第

## イヤーな出会い

あれは暑いが楽しみだった夏休みに入ってすぐの頃

アイツとの出会いだった

もともと自分はお化けとか幽霊と呼ばれる

オカルト的な物は苦手であったが

アイツとの出会いがそれを変えた

幽霊が苦手な割に霊に取り憑かれやすいらしい（気孔の先生曰わく）

ある日

自分の通学用自転車がいっつもより重たい気がして後ろを振り返ると  
足を下に伸ばして荷物を置くところに座っている人がいた

自分の頭の中では

色々な意識がこんがらがりはっきり言って訳が分からなかった

だって普通人がいない場所に人が居て

しかも前から居たよって感じなんだもん

そうコイツがアイツ

アイツは「私はだいぶ前から一緒に居たよ」なんて言われたそりゃ  
驚くだる普通

でコイツと一緒に登校していた友人には見えなかったらしい

どうも苦手なアレらしいついに見えるようになったんだなと自分の

力の開花を噛み締めつつ恐る恐る後ろを振り返ると

長髪の俺と同一年ぐらいの女の子が座っている

すぐに前をむき直しひたすら自転車をこぐ

「ねえ、ユキ」

どこからか知らない声が聞こえて

もちろん隣の友人には聞こえていない

恐る恐る後ろを振り返るとあの少女がこちらを向いている

まさかとは思いつつ無言で意志を送ってみた

「なんで俺の名前をしている」

最初の質問がコレとは我ながら今思ったら恥ずかしい

「だつてずっと一緒に居たのに気づいてくれなくて寂しかったんだよ」

どうも意志で会話はできるようだ

しかし、俺は寂しがられても知らん

「それは悪かったな、しかしそれは俺の名前を知っているという俺の質問には関係ないだろう」

なぜ謝っている俺

「だって私の感情は感じられるのはあなただけだし、それはね他人との会話は聞けるから私」

「は？、お前つて何者」「一応お化けかな」

「やっぱりそうなんだ」「これからよろしくね」「は？意味が分からん」「ユキ、アナタに私は取り憑いてるから

これから相棒だからよろしく」

んでこの幽霊の相棒を今からは  
藍あゐと呼ぶことにする

相棒からもじつてな

コイツ

授業中は静か

休み時間中はイタズラして来る

会話はよくする  
友達のグチとか  
訳わからん事とか  
授業の内容等

しかし、藍が来てから付いたのは24時間体勢の話し相手だけでなく

霊力的なものがついた

藍が詳しく教えてくれて  
霊力が減ると藍と会話がやりにくくなり肉体の回復速度が落ちる  
しかし霊力を自分の意志で使えるのはまだコレだけ

霊力で体の回復をする

ともう一つは

藍を一時的に自分の体に入れる事で全ての自分の能力を一時的にあげる事ができる  
上がる能力は体力、精神力、知恵、頭の回転、体の機能全般（足が速くなる等）、最後に運

しかしコレをやってみたら一時的に凄く楽になるが  
後で反動がひどい  
吐き気、腹痛、だるさ  
が同時に来る

しかし緊急時には

反動が少なく使用できた  
調子コいて持久走の時に使ったら  
30秒しか保たなくて

なおかつ反動大

しかし、30秒間の間だけ疲れ感じないし普段よりはやくはしれた  
我ながら思うが凄いな

藍

書くのを忘れていたが

霊力は毎日ある程度は回復するし  
なにか食べたり飲んだりしたりすると少量は回復する

学校から帰って、へろへろになりながらも藍と会話を交わした

「今日は疲れたよね」

「なんか知らんがものすごく疲れた」

「あなたの霊力半分もらったからそれかも」

「おいおい、ちょっとまってよ、霊のおまえがなぜ霊力がいる？」

「あなたのあまった分をもらうつもりだったんだけどちょっととり  
過ぎちゃったみたい、テへ」

「テへじゃねーよ」

## イヤーな出会い（後書き）

こんな感じで続けます

これを書いている間にも藍に3回、5回は殴られた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5594o/>

---

妄想バカと幽霊と相棒と

2010年11月5日17時25分発行